

海外安全対策情報 2024 年第 1 四半期（1～3 月）

在ブルガリア日本国大使館

1 社会・治安情勢および一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 社会情勢

- ・ 複数のデモ（極右勢力によるデモ（ルコフ・マルシュ）、ロシアによるウクライナ侵攻開始から 2 年に伴うデモ等）が実施されましたが、大きな混乱は生じませんでした。
- ・ 1 月下旬以降、ブルガリア各地でインフルエンザの流行宣言が発令されましたが、2 月中旬までに収束し、宣言は全て解除されました。

(2) 治安情勢

ア 犯罪統計

ブルガリアでは近年、犯罪の減少傾向が続いていましたが、2022 年の犯罪認知件数は前年比約 1 割増となり、5 年ぶりに増加に転じました。人口 10 万人当たりの犯罪認知件数を日本と比較すると、ブルガリアは日本の約 2.8 倍で、罪名別にみると殺人は約 6 倍、強盗は約 15.2 倍と、凶悪犯罪について非常に高い水準にあります。

なお、この期間中、ソフィア市内で外国人（非ブルガリア人）が絡む暴行事件が連続的に発生し、以降、ソフィア市警察が市内中心部の警戒を強化しています。

イ 不法移民統計

内務省の発表によると、2023 年中にブルガリア国内において身柄を拘束された不法移民は 18,887 人で、前年から約 0.08%増加しました。

ウ 交通事故統計

内務省の発表によると、2022 年のブルガリア国内の交通事故発生件数は 6,609 件（前年比+529 件）、死者数は 531 人（前年比-30 人）、負傷者数は 8,422 人（前年比+813 人）でした。

欧州委員会によると、2022 年のブルガリアの人口 100 万人当たりの交通事故死者数 78 人で、86 人のルーマニアに次いで、EU 内ワースト 2 位です。

(3) 日本人被害犯罪の発生状況

この期間中、日本人が被害となった犯罪は認知していません。

2 テロ・爆弾事件発生状況

この期間中、テロ・爆弾事件は発生していません。

3 誘拐・脅迫事件発生状況

この機関中、日本人が被害に遭った事件は認知していません。

4 日本企業の安全に関する諸問題

ブルガリア国内における対日感情は基本的には良好で、日本人に対する差別行為はこれまであまり見られません。